

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成23年9月30日)

事業コード	H23-建一終-1	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	国道道路改築事業	部 局 課 室 名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築(パイパス)	班 名	道路建設班 (tel)018-860-2492
路線名等	一般国道398号	担 当 課 長 名	柴田 明
箇所名	湯沢市皆瀬(大湯道路)	担 当 者 名	鈴木 護
政策コード	10	政 策 名	交通基盤の整備
施策コード	02	施 策 名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備
指標コード	01	施策目標(指標)名	県管理国道の整備推進

1. 事業の概要

事業の背景及び目的	当路線は宮城県石巻市から湯沢市皆瀬を經由して由利本荘市に至る一般国道398号である。湯沢市皆瀬大湯付近は栗駒国定公園内にあり、周辺には小安温泉や泥湯温泉、須川温泉、秋の宮温泉などがあり県内有数の温泉地帯である。 当事業区間を含めた秋田・宮城県境の道路において、観光シーズンは大型バスによる観光客が多数来県するにも関わらず、すれ違いが困難で渋滞を発生している状況であったため、各方面から早急な道路整備が望まれた。						
	事業期間	前回(H18年) HO1年 ~ H20年 終了 HO1年 ~ H21年	総事業費	前回(H18年) 129億円 終了 127億円	国庫補助率 5.5/10		
事業効果の要因変化及び発現状況	事業規模	前回(H18年) 延長L=6,120m 幅員W=6.0(8.5)m (1.25-3.0-3.0-1.25)m 終了 延長L=6,060m 幅員W=6.0(8.5)m (1.25-3.0-3.0-1.25)m					
	事業費内訳内容(千円)及び要因変化	経内費	事業費	前回評価計画①	最終②	増減②-①	理由
			工事	11,297,000	11,170,873	-126,127	請負差額による
			用補	118,000	115,276	-2,724	用地単価、補償額に確定による
			その他	1,477,000	1,455,751	-21,249	請負差額による
	事業内容	調査・設計 改良工、橋梁工 トンネル工 舗装工	調査・設計 改良工、橋梁工 トンネル工 舗装工				
	コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因(前回評価→終了)				
	○最終コスト 終了C②/前回評価C①=(0.99)		【便益】 人口や観光客等の減少による自動車交通量の減による				
	○費用便益 前回評価B/C=(1.7) ↓ 終了B/C=(1.2)		【費用】 請負差額による				
	目標達成率	指標名	県管理国道改良率				
指標式		改良率(改良済延長/路線実延長)					
指標の種類		○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○有 ●無			
目標値a		93%	データ等の出典	道路課調べ			
実績値b		94%					
達成率b/a		101.1%	把握の時期	平成23年 4月			
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 ○指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 ※データの出典含む							
自然環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・道路線形は、極力地形に沿わせ、地形の改変を極力抑えた道路構造とし自然環境を保全した。 ・のり面の緑化は、在来種を主体とした種子による植生を行い周辺の植物生態系に配慮した。 ・トンネル照明用の電源供給は、景観や倒木等による断線に配慮し、地下埋設で引き込みを行った。 ・橋桁(耐候性鋼材)、橋梁高欄、防護柵全てが同一色(茶色)となり色彩の調和が図られている。 						
社会経済情勢の変化	岩手・宮城内陸地震以降、観光客数が落ち込んでいるが、地元ではその回復に努めている。						
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	地域住民及び周辺企業等へのアンケート調査の結果、移動時間の短縮、カーブや勾配が緩やかになったことによる安全性の向上、すれ違いがスムーズになったことによる快適性や走行性の向上が整備効果として挙げられている。						

住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ● 受益者 ○ 一般県民 (時期:平成23年 7月) ②満足度把握の方法 ● アンケート調査 ○ 各種委員会及び審議会 ○ ヒアリング ○ インターネット ○ その他の方法 (具体的に) ③満足度の状況
	地域住民などから、「移動時間が短縮された、安全性が高くなった」に高い満足度が得られた。
上位計画での位置付け	ふるさと秋田元気創造プランにおける施策「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業
関連プロジェクト等	・東北中央自動車道 湯沢横手道路(横手IC～雄勝こまちIC)H9～H19
前回評価結果等	●選定または継続 ○改善 ○見直し ○保留又は中止
	①指摘事項 なし
	②指摘事項への対応 なし

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	①住民満足度の状況 ●A ○B ○C アンケート調査結果から、約7割の回答者から安全性が向上したという回答だった。さらに約8割が事業に満足、概ね満足しているとの回答だった。	●A
	②事業の効果 ●A 達成率100%以上 ○B 達成率80%以上100%未満 ○C 達成率80%未満 当該事業は、計画通り進捗し、国道398号の路線改良率目標に達した。	○B
		○C
効率性	①事業の経済性の妥当性 ○A ●B ○C 費用便益比は1.0を上回っていることから、本事業は経済的に妥当であったと評価できる。	○A
	②コスト削減の状況 ○A 削減率20%以上 ○B 削減率20%未満 ○C 削減なし	●B
		○C
総合評価	○A (妥当性が高い) ●B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い) 計画に沿って着実に進捗し、地域住民の利便性の向上や交通安全の確保が図られるとともに観光道路としてもその機能を発揮しており、住民満足度等からも成果が認められることから、当事業は概ね妥当であると評価できる。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

当該道路のような山地部での大規模改築事業では、計画区間内の現道を有効利用してコスト削減を図ることが必要である。また、観光道路であったことから、橋梁(12橋)に樹木の名前を採用するなど観光客が楽しみながらドライブできるよう配慮している。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

○総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	